



KARIBIB の回想



2023 年度 1 次隊/数学教育/渡辺 崇人

2024 年 8 月 1 日 Vol.16 (番外編)

JICA 海外協力隊員には「私事目的任国外旅行」といって一年間で最大二十日間、所管の事務所および配属先から承認を受ければ国外へ旅行できるという制度があります（別途、治安等により国ごとに個別の制限がある場合があります）。その制度を利用して、2023 年 12 月にアフリカ諸国へ渡航して来ました。

この通信は「ナミビア通信」ですが、せっかくのこの機会を活かし、自身が渡航したアフリカ諸国についても番外編としてしばらく紹介させていただこうと思います。

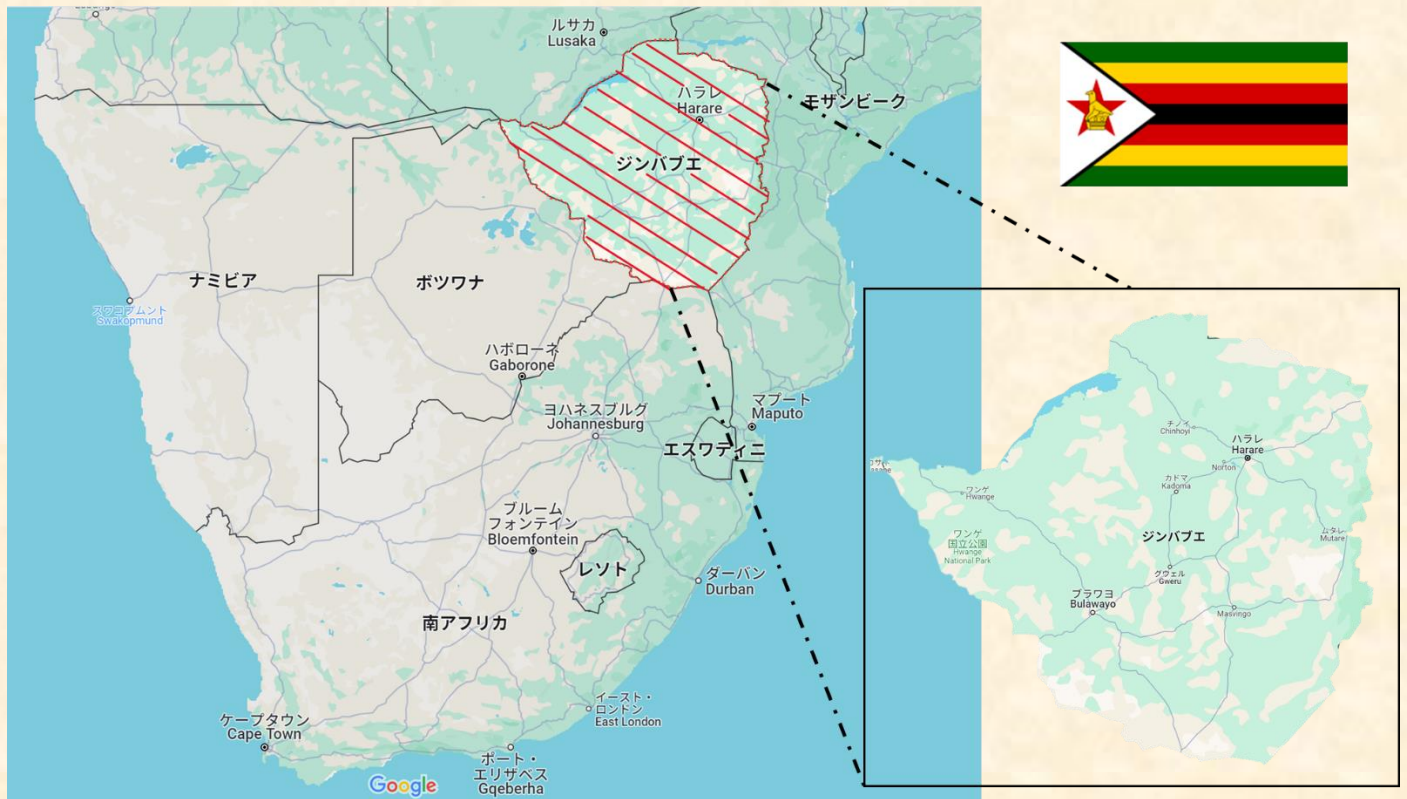


図 1：ジンバブエの地形図（国旗は https://en.wikipedia.org/wiki/Flag_of_Zimbabwe）

本日紹介するのは、南部アフリカでナミビアより東に位置する「ジンバブエ共和国」です。図 1 の斜線部分にあたる内陸国になります。この国の見どころの一つに「グレートジンバブエ」というサハラ以南最大の石造建築があり、現地語で「大きな石の家」という意味がある国名の“ジンバブエ”は、この「グレートジンバブエ」が由来になっているそうです。

●基礎データ（外務省「ジンバブエ基礎データ」より）

面積	38.6 万 km ² （日本の約 1.02 倍で日本とほぼ同じ）
人口	1,632 万人（2022 年）
首都	ハラレ
言語	英語、ショナ語、ンデベレ語

ただ、ここに渡航した目的は、ナイアガラ、イグアスと並んで世界三大瀑布に名を連ねる「ビクトリアフォールズ」を一目見ることです（場所は図 1 北西部のザンビアとの国境沿いに位置する水色の部分）。ナミビアからビクトリアフォールズ空港までは直行便があり、時間にして2時間程で行けるお手軽な場所でもあります。（ここに来るまで知りませんでした。ウガンダやケニアと接している赤道直下のヴィクトリア湖とはまた別物です。）

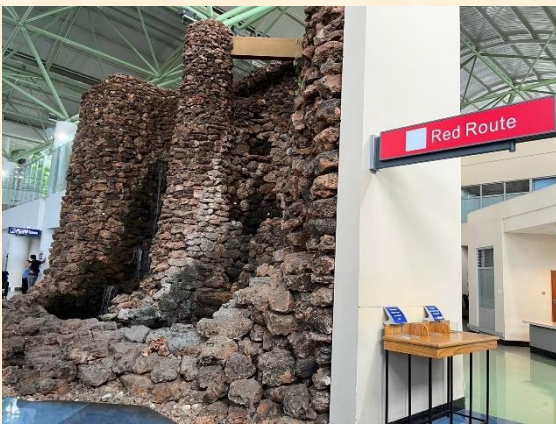


写真1：ビクトリアフォールズ空港

その空港が左の写真1です。空港で入国審査を受けた後、出口側の壁にまさに滝を連想させるような大きなモニュメントがありました。自身はナミビアを含めても海外の空港を利用するのが2回目だったため少し緊張しましたが、これを見ると“別の海外に来た”という楽しみと共に、また違った感情も湧いてきました。

ビクトリアフォールズ周辺ではツアー会社が海外からの観光客向けに空港⇄市街地間の送迎やビクトリアフォールズ周辺でのアクティビティの案内を手広く行っています。この地区の家には門に番地のような番号が振られており（写真2）、送迎の際に番号を伝えとその家の前まで送ってくれます。幸い、公用語が英語なため、予約から送迎までスムーズに行えました。



写真2：ビクトリアフォールズ市街地の家の門

ビクトリアフォールズ地区のゲストハウスに泊ってみての印象ですが、ナミビアより頻繁に停電が起こるなというものでした。こちらには二泊お世話になりましたが、二泊とも夜に停電が発生しました。そのため、このゲストハウスには手動の発電機が常備しており、停電になるとそこから電力を供給してくれます。これはカリビブはおろか、日本でもなかなか経験できないことで、改めて電気のありがたみ・便利さに気付かせてもらえる、日頃の旅行にはない体験でした。また、夜中でもすぐに対応してくれるゲストハウスのス

タッフのありがたさにも触れることができました。

さて肝心のビクトリアフォールズ本体ですが、実は観ることができず…。というのも、先ほどのツアー会社の運営するアクティビティの1つであるラフティングに参加させてもらったところ、100m以上ある渓谷を自身の足で下っていき、ザンベジ川まで下りて行ったのですが、下に着いたら周りの景色が壮大すぎてどれが滝が分からなかったという何ともお粗末な結果になったためです。滝のすぐそばまで行って、滝を見ずに帰ってくるのは世界を探しても自分だけなのではないかと言うほど不徳の致すところです。

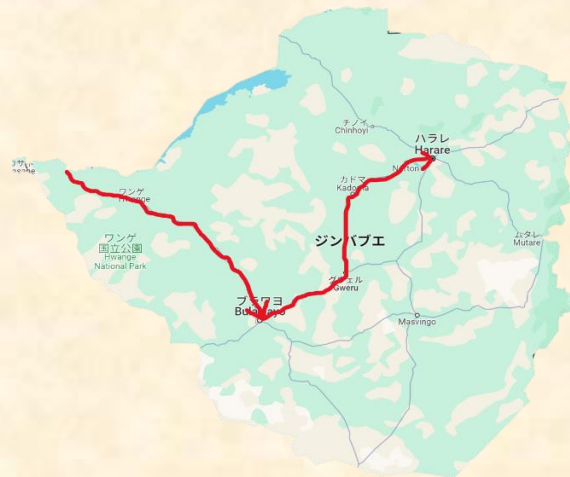


図2：出国までの国内の帰路



写真3：ブラワヨのとある通り

翌日は、出国のためにビクトリアフォールズから国際空港のある首都ハラレまでバスで16時間の大移動です（図2）。道は舗装されている所が多かったため、そこまで負担は大きくなかったですが、それでもこの長時間のバス移動は初めてでした。途中、首都に次ぐ国内第2の都市ブラワヨを通過しているとき、住宅の間にゴミが散乱している通りが目にとまりました（写真3）。カリビブもこれに似たような課題があり、「環境汚染はよくない」と声高に主張することは簡単ですが、インフラの整っていない、文化の異なる国に果たしてどこまで要求していいのだろうか？ということを一瞬考えさせられました。そこがゴミ収集場でなくても、誰かがゴミを捨てれば簡単にゴミ山になることも窺えました。



写真4：ジンバブエドル

最後に、この国の歴史を少し紹介します。この国はかつて、独自通貨である“ジンバブエドル”を所有していましたが、白人の所有する土地を強制徴収する法律を制定した影響で、2000年頃から農業の崩壊を招き、結果として食料の供給不足→ハイパーインフレを起こしています。そのため2008年のレートでは1ジンバブエドルが約0.000000000000086円と類を見ない暴落を見せ、結果として紙幣にも0が増えていったそうです。それが左の写真4です。現在は廃止され、米ドルが主に使われています。ただこの紙幣、ハラレにある国際空港のお土産屋の店員に尋ねると奥から出してくれ、購入することができます！写真にはないですが「100兆ジンバブエドル」もありました。興味がある方は立ち寄ってみてください(^^)／

次回：「アフリカの温かい心」という愛称で親しまれている国について紹介します！